

# 学校保健委員会だより

平成26年12月4日

11月27日（木）に、本校において学校保健委員会が開かれました。  
学校医・学校歯科医・PTA 会長・副会長・スクールカウンセラーさんが来校され、本校の生徒の健康課題についてご意見をいただきました。

## ○報告

### <生徒保健委員会の活動> 坂内前期保健委員長

- ・前期は、マイポットマイボトル運動に取り組んだ。来年度は、どのクラスも持参率 80%になるような取り組みをしていきたい。
- また、翠陵祭ではスーミンにも登場してもらい「睡眠の大切さ」について全校生徒に伝えることが出来た。今後も八頭高生が関心をもっているテーマに沿った発表をしていきたい。
- 後期は換気の徹底について呼びかけていく予定である。



### <環境衛生検査の結果>

- ・ダニアレルゲン検査は異常なし。
- ・照度については、第3校舎では晴天の場合まぶしすぎるので、カーテンを使用する。
- 特別教室では、電球が切れていないか定期的に点検することが必要。

### <教育相談活動について> 今西 スクールカウンセラーより

様々な不安や悩みを語るが、学習に関する悩みが根本にあることが多い。

発達障がいやその他の障がいのある生徒に対しては、保護者の了承のもと、医療機関や特別支援コーディネーターとも連携して、学校で行うことのできる支援について助言を頂いている。

## ○協議

- 1 体育や部活動でスポーツ振興センターの対象になるけがの発生は起こっているものの、一部の部活において、けがの発生割合が減少している。

### <生徒の現状について>

中西先生) 平成28年度より健康診断の項目に「四肢の状態」が加えられる。

岸本校医) 和式トイレの減少や雑巾がけをしらないなど、生活の中で関節・筋肉を鍛える動作が減っている。

岸校医) 学年による身体能力の差があるのなら、学年別の運動メニューを考えることも大切。

二子石先生) マット運動を教えていて、足が開かない・後転ができない生徒がいる。

体育の授業だけで柔軟性を高めることは時間的に難しい。体育の授業をきっかけにして、各自がストレッチに取り組んでほしい。



## <取組>

サッカー、バスケットボールでは骨折や靭帯損傷といったけがの発生数が減少している。部顧問に指導法を調査したところ、栄養・生活リズムの見直しや体幹の鍛え・柔軟性を意識したメニューを取り入れていた。

また、休養を取り入れ、健康を根底においた指導の実践を行っていた。

### (対策)

校長先生：危険を予知する能力を育てることも大切である。指導者は、危険予知能力が衰えている現状を把握し、それに合った指導を行っていくことも必要。

中西先生：部顧問会で、けがの発生状況や各部の取り組みを伝え、全体に啓発していきたい。

八幡歯科医：歯の破折については、初期対応が大切。保存液の保管場所を部顧問も知って使用できる状態にしておく。

盛田歯科医：マウスピースを使用することは予防に効果的だが、作成依頼も減っているように感じる。作っても使用していない子もいて、学校としての着用の指導も必要ではないか。

奥田PTA会長：ホッケーとバスケットボールには、マウスピースを無償で作る事業が以前あった。保護者としては着用してほしいが、本人が着けたくないといって使っていない状況もみられる。

岸校医：普段、運動をしていない生徒のケアを行うことが必要。体育祭前にけがが増えているのであれば、その前にけがの防止やストレッチについて伝え、家で実践するように教えていく対応が求められている。

## 2 子どもの出す心のサインについて

滝波先生) 教員が、生徒の異変に気づき相談してくることもある。家庭でも、変わった様子に気づいた時に、教育相談に連絡してほしい。スクールカウンセラーと本人が会わなくても、様々な人が生徒を見守っている状況をつくるのが大切。

山本さん) 地区研修会でそのことは、保護者の方に伝えていきたい。

岸本校医) 心と体の健康相談に携わっているが、生徒の考えを引き出すことを念頭においている。また、生徒には様々な意見に触れることの大切さについて伝えている。

盛田歯科医) 歯周病の治療で訪れた子どもに、悩みや不眠といった心理面での問題があることがある。

